

言語的コミュニケーションがとれない方への関わり方 ～左上肢での意思表示に着目して～

17cc17 瀧山瑤美

I. はじめに

言語的コミュニケーションがとれる方はコミュニケーション過程で耳や目を通して情報を受け取り、脳にたどり着きそこから指示が出て脳の情報が口・手・目などへ届き話す・身振り・書くことにより相手に意思表示ができるが、非言語コミュニケーションの場合では何らかの支障で適切に稼働せず、コミュニケーションが達成できないことを意味するものです¹⁾。今回は介護実習Ⅲで担当させていただいた発達障害のある方の左上肢でのコミュニケーションの場面を振り返り、意思表示の方法について理解を深めていきたい。

II. 実習先種別・実習期間

実習種別：医療型障害児施設

実習期間：2018年6月25日～7月24日（23日間）

III. 受け持ち利用者の紹介

氏名：A様 性別：女性 年齢：40代後半

介護が必要になった主な疾患・障害：

発達障害、拘縮（首、左上肢の肩関節、肘関節、手首は自己にて動かすことが可能）

ADL：生活行為全介助

IV. 介護の実際

1. 情報の解釈・関連づけ・統合

コミュニケーションでは言葉を発することができないが近くに人がいると「グウ」で触れてきたり、笑顔を見せてくる。一日の過ごし方、余暇時間はリビングで横になっていることが多いため、動く左手で物を倒すことが好きという情報の基、ドミノ倒しをして手のひらをタッチするという活動では声を出して笑う。

以上のことから左手を動かし人と関わったり、物を倒して楽しんだりすることはA様にとって大切な活動であると考ええる。また、活動を行えなくなることにより、意欲が低下し、リビングでただ横になっている生活となってしまうことが予測される。

2. 介護上の課題：人と関わる中でA様が面白いと思えることを増やす必要がある

3. 介護計画

長期目標：施設生活で充実した生活を送る

短期目標：興味関心のある活動を増やすことができる

具体的援助内容

計画をする前に魚釣りを試してみてとても楽しめる様子があったため

- ・魚釣り（左手を良く動かすため左手を使った活動として実施することで余暇時間の充実を目的として）

魚釣り以外の活動として

- ・ドミノ倒し（物を倒すことが好きだと観察から得たため実施）
- ・魚釣り、ドミノ倒しに似た活動を探す（ボール、型はめパズル）を追加した。

4. 実施及び結果

魚釣りでは毎日 5 分～10 分程実施した。積極的に参加しようとしていた。

ドミノ倒しでは一列よりも複雑な並び方にした方が楽しんでいる様子が見られた。

型はめパズルでは型にあわせるのが難しかったが支援者側が型まで持っていくと利用者が型の中にパズルを押してくれ、型の中に入ると楽しそうな表情が見られた。

V. 考察

今回実施した活動ではどれも表情よく行なわれ、その際に左手を上げたり下げたりして楽しんでいる様子を感じることができた。このような様子を見ることができ、実施してよかったのではないかな。

以上のことから短期目標である興味関心のある活動を増やすことができることにつながったのではないかな。

発達障害の方の限られた意思表示の中から興味のある活動は、コミュニケーションになるのではないかな。さらに、活動を行なうことで楽しみながら身体機能の維持に繋がるのではないかな。

発達障害の段階に沿った展開が大切であり、大人がおこなっている完成形から教えようとする（中略）うまくできず、最終的にはその活動が嫌になってしまう場合がある²⁾と、鴨下（2018）が述べている。重度になると行なえなくなることがあるが、本人の目線や左上肢の動きから本人の意思を読み取り、できることを活用することで生活が豊かになるのではないかと考える。

VI. おわりに

今回は言葉を発することができない方への関わり方として左上肢を使った意思表示について振り返りを行った。

言葉を発することができる人の場合は「～やろう」「～したい」など意思表示ができるが言葉を発せない方には支援者側から「～やってみますか」などと声をかけその方の意思表示に着目することが大切だと考えた。また、左手を動かしたりすることによりその方の意思表示が分かるのではないかな。人によって意思表示の違いがありコミュニケーション方法が違うためその人その人の表出を見極め、その人にあったコミュニケーション方法を知ることが必要である。

引用・参考文献

- 1) 介護福祉士養成講座編集委員会（2015）「新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術」中央法規出版 p.119
- 2) 鴨下賢一（2018）「発達が気になる子へのスモールステップではじめる生活動作の教え方」中央法規 2018 p.14